横浜災害ボランティアネットワーク会議

平成 28 年度　第 2 回運営委員会について報告します。

日　時	平成 28 年 6 月 14 日(火) 18:00～21:00
会　場	横浜市健康福祉総合センター　8 階　大会議室 F
参加者	鶴見区災害ボランティアネットワーク　河西(運営委員長) ガールスカウト横浜市連絡協議会　梅田 ボーイスカウト横浜市連合会　宮崎 南区災害救援ボランティアネットワーク　山片 保土ケ谷区災害ボランティアネットワーク　飯島 磯子区災害ボランティア連絡会　小原 金沢区災害ボランティアネットワーク　外山 泉区災害ボランティア連絡会　乾 瀬谷区再ギアボランティアネットワーク　篠 オブザーバー:横浜市市民局市民活動支援課　西島係長 事務局:横浜市ボランティアセンター　吉嵜、船水

【議題 1.　平成 28 年度総会及び会員向け研修会について】　資料 1 参照

・今年度の内容について最終確認を行った。また、研修会講師である園崎氏への依頼内容についても確認。

【議題 2.　平成 27 年度事業報告について】資料 2 参照

・資料に沿って事務局より説明。総会資料として使用するため、確認・修正を行った。

＜修正箇所等＞

・P5 ③子どもを対象とした災害ボランティアに関する取組みの部分

参加者募集に関して、市域団体の YMCA やガールスカウトに協力していただいたため、その旨を加筆。

＜感想・意見＞

・改めて事業報告を見返してみると、市域団体の活動や関わりが薄いと感じた。

・事業報告の内容や表現が社協の事業に偏ってしまっているように感じる。

・発災時、具体的に市域団体がどう動いてもらえると良いのか。こちらから示していかないと分からない部分もあるのではないか。実際の場面を想定して話し合っていく必要がある。区災ボラは自分の区で活動をするので市災ボラ支援センターまではくれない可能性も高い。

・市域団体とも平時から共に訓練を行うことも考えていく必要があるのでは。

【議題 3.　役員の改選について】資料 3 参照

・資料に沿って事務局より説明。

平成２８・２９年度の役員について

運営委員については候補確定（今期の運営委員のうち、旭区を除く 16 団体）

→旭区災害ボランティア連絡会については、新体制となったため、自分たちの活動を安定させることを優先したいとの申し出があり、継続辞退。

代表・副代表については、現任の役員に今期も継続していただく方向で調整。

→横浜 YMCA は梶谷氏が退職されているため、他の職員の方でお引き受けいただけるか調整を行う。

【議題 4.　平成 28 年度事業計画について】資料 4 参照

・資料に沿って事務局より説明。

＜修正箇所等＞

・１）横浜市災ボラ支援センターの組織体制の構築　③市域団体との連携についての部分。もう少し推し進めていくということが感じられるような表現にした方が良い。
→ヒアリングを積極的に行うという表現に変更。

・３）各機関との連携強化の部分。熊本地震への支援については記載しなくても良いか？市域や県域で熊本支援に動いている団体もあり、そういった団体の活動の周知協力等も可能ではないか？
→「他機関と情報交換を行いながら、熊本地震への支援を検討します」という一文を③として加筆する。

【議題 5.　NEWS　LETTER　NO.56 の内容について】資料 5 参照

・資料に沿って掲載内容の検討を行った。

・次号の会員紹介として候補の４団体に声掛けを行っていくこととした。

【議題 6.　その他】

・市域団体における災害時の支援活動の共有について
熊本地震の発生後、複数の市域団体が独自に支援を行っているという動きがある。今後市域団体との連携が重要になってくる中で、会員同士の関係づくりの意味も込めて、市域団体を対象として災害時にどのような支援活動ができるのかという情報共有の場を設けたいと考えている。具体的な内容については運営委員会で検討していきたい。区災ボラ以外の会員が参加している利点を感じられる様な市災ボラにしていければ良い。

＜出席されていた市域団体より＞

・ボーイスカウトの場合、市の連絡会→区→各団という流れになっており、実際的に活動をしている人が多いのは団である。市災ボラ運営委員会や研修などでノウハウを学び、持ち帰れることが利点だと感じている。災害時のコーディネートの訓練はしていないが、活動のノウハウは訓練している。実際に災害が起きれば、全員が奉仕活動として被災地へ飛んでいくことは可能。しかし、年少者が多く、資金的な面でサポートがほしい。（ボーイスカウト）

・研修や事業等を行う際に、各区単位でも個々に連絡をもらえれば、そのつながりを活かして活動することができる。（ガールスカウト）

・熊本地震への支援でボランティアが参加できる飛行機便を実施。日本財団の助成金を活用。１回の活動日数は少ないが、日程を多くとり 200 人規模で募集を掛ける予定。

その他、参加委員より現況報告。

次回：7 月 25 日(月)18：00～　健康福祉総合センター8 階 8F 会議室